

高等学校

平成 9 年 度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究の経過	1
III	研究の視点	2
	1 主題に対する基本的な考え方	2
	2 研究の進め方	4
IV	指導事例	5
	1 指導事例1 衣服と自己表現	5
	2 指導事例2 自立した食生活と消費生活における購入の在り方を考える	8
	3 指導事例3 夫婦別姓－ロールプレイディベートを通じて現代の家族を考える	11
	4 指導事例4 地球温暖化について理解し、ライフスタイルを見直す	15
	5 指導事例5 人間の暮らしと住環境について考える	18
	6 指導事例6 住まいと家庭生活－ライフスタイルの実現を目指して	21
V	研究のまとめと今後の課題	24

平成9年度 教育研究員名簿

学 校 名	氏 名
都立日比谷高等学校	小高 さほみ
都立城南高等学校	境野 みくり
都立田園調布高等学校	梶原 恵美子
都立目黒高等学校	笹間 真由美
都立青山高等学校	佐々木 あや子
都立池袋商業高等学校	村岡 千賀子

担当 指導部高等学校教育指導課指導主事 清水 ゆかり

I 主題設定の理由

現在、我が国ではものや情報があふれ、物質的には豊かな社会となったが、反面、人や自然とのかかわりが少なくなり、人間関係の希薄化が言われて久しい。そして、このことは家庭生活のみならず、高校生の生活にも大きな影響を与えている。

生徒は、ものや仲間との情報交換に敏感であり、皆同じような姿をして、同じ行動をとり、没個性になっているとは気付かず、それが正しいものであり、自分の意思決定であると考えている様子がうかがえる。また、仲間同士では意志の疎通が図れても、異なる世代の人々や地域の人々との交流がほとんどないため、他人を思いやり、広い視野をもって物事を推し量ることができず、自分とその仲間たちとの狭い価値観で物事を判断し、決定していくという場面も多く見受けられる。

第15期中央教育審議会は、「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむことを提言した。生きる力とは、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力であり、また、自らを律しつつ他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性のことである。生きる力をはぐくむためには、学校・家庭・地域社会が連携していくとともに、学校教育において生きる力の育成を重視した教育を推進していく必要がある。

高等学校家庭科では、家庭生活の充実向上を図る能力と主体的、実践的態度を育成することを目標の一つとしている。変化の激しい時代にあっては、常に自分で価値判断でき、意欲的、創造的に生活できる能力と態度を育成することが必要だからである。しかし、生徒は現在の自分がまず大切であり、将来を考え、学んでいこうとする姿勢をもたせることが難しくなっている。

そこで、本年度の教育研究員は、人や環境とのかかわりの中で豊かな人間性をはぐくむとともに、生活の中で体験する様々な場面において、自分自身で考え、判断し、意思決定していく力を高める指導内容・方法について研究することにした。

II 研究の経過

5月	研究主題の設定、研究計画・方法の協議	11月	研究報告書原稿検討・読合せ
6月	研究内容・方法の協議		研究授業（目黒・日比谷・青山・
7月	研究内容の協議、御岳合宿の準備		田園調布）
8月	御岳合宿（研究内容に関する協議、 研究授業の内容検討）	12月	最終原稿の読み合わせ
9月	授業指導案の検討	1月	研究発表会の準備
10月	研究内容・報告書原稿の検討 研究授業（城南・池袋商業）	2月	研究発表会

Ⅲ 研究の視点

1 主題に対する基本的な考え方

今日、社会の変化は急激であり、地球環境汚染の問題から暮らしに直結する日常の問題に至るまで、これまでに習得した知識だけでは解決することが難しくなっている。私たちは、確実な座標軸をもちえないまま、自分で情報を収集・判断し、自己決定していかなければならない時代に生きている。

生徒はこれまでに小・中学校において様々な学習を積み重ねてきた。しかし、これからの人生を切り開いていくには、生徒が自分で問題を発見し、考え、判断し、自らの生き方に照らし合わせながら、それを解決していくことのできる能力や資質が必要であり、それらを育成することが学校教育に求められている。

家庭科は生活に直接結びつく内容を取り扱い、自立した生活者を育成することを目標としている。これからの人生や日常の生活の中で起こる様々な事柄と関連させて、自分で考え、決定していく能力を高めることは、目標を達成するうえで不可欠である。また、人と人とのつながりや自然と人のかかわりについて考え、共に生き、支えあう連帯の視点を育成することも重要である。そこで、自己決定能力を高めるとともに豊かな人間性をはぐくむ指導について考えてみた。

(1) 自己決定能力と自己教育力

自己決定能力とは、あらゆる情報の中から、自分にとって必要なものを選択・整理し、主体的に判断し、自分の意志で決定することができる能力のことを言う。自己決定能力の育成は、自己教育力を高め、自己実現していける学びの力を高めることと深くかかわる。図1に指導の構成についてまとめてみた。

自己学習能力とは、たとえ一人でも学習することができる能力のことであり、基礎的な学習能力である。それを基本として、いろいろな学びの様式を身に付けることにより、生徒の自己教育力は高まり、さらに将来の目標に向かって生徒自身が歩もうとする活力、即ち自己実現の力へと高まっていく。その過程の中で自己決定能力も高まっていくと考えた。

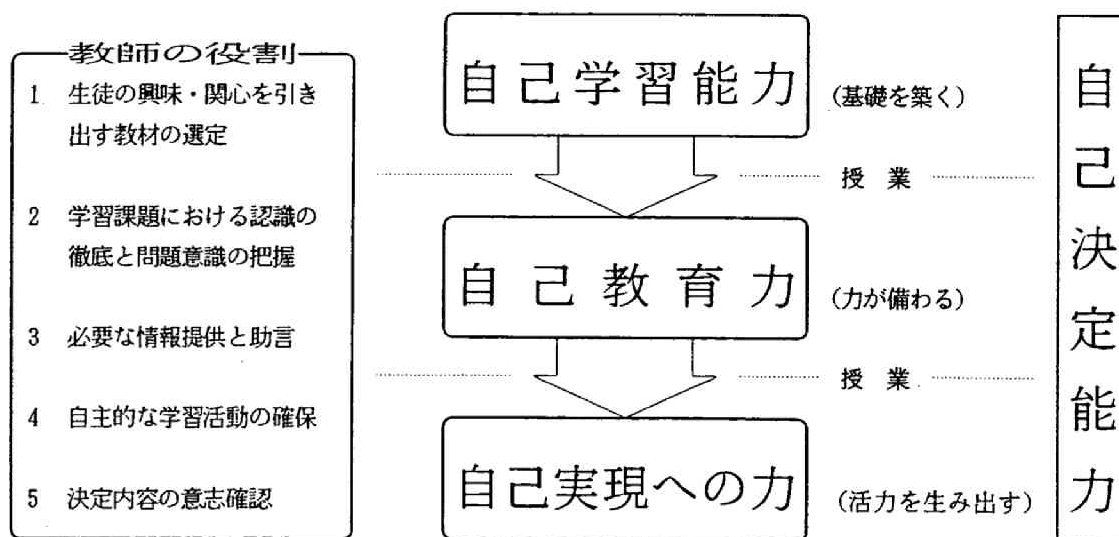


図1 自己学習能力・自己教育力と自己決定能力

自己決定能力を身に付けていく過程で欠かせないことは、「考える」という行為である。考えることは、問題解決のために集中している姿であり、自己の価値観を形成するための迷いの姿であるともいえる。この集中→迷い→価値判断→決断という一連の経験の積み重ねが、自己決定能力をはぐくむ上で重要である。

また、その決定が独りよがりのもとならないよう広く社会に目を向け、社会の一員であるという認識を生徒にもたせるとともに、自らの行動が周囲の人々に与える影響についても考えさせていく必要がある。

(2) 豊かな人間性について

中教審答申では、「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心」を豊かな人間性と定義し、生きる力を構成する要素の一つとしている。また、美しいものや自然に感動する心といった柔らかな感性、人権を尊重する心、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考えたり、共感することのできる温かい心、ボランティアなど社会貢献の精神も生きる力を形作る大切な柱としている。このような豊かな人間性は、各教科のあらゆる教育活動を通じて充実を図るべきであるが、その際、家庭や地域社会と連携して体験的な活動を充実する必要がある。

家庭生活を中心に豊かな人間性をはぐくむ構造について、図2のようにまとめてみた。

豊かな人間性は、家族・友人・地域の人々など自分を取り巻く人々との関係、生活環境や生活経験、知識や技能の習得などを通してはぐくまれていく。また、人とのかかわりの中で、相違を認め、相互の価値観を尊重し合うことにより、他人と協調し、他人を思いやる心をはぐくむことができると考える。

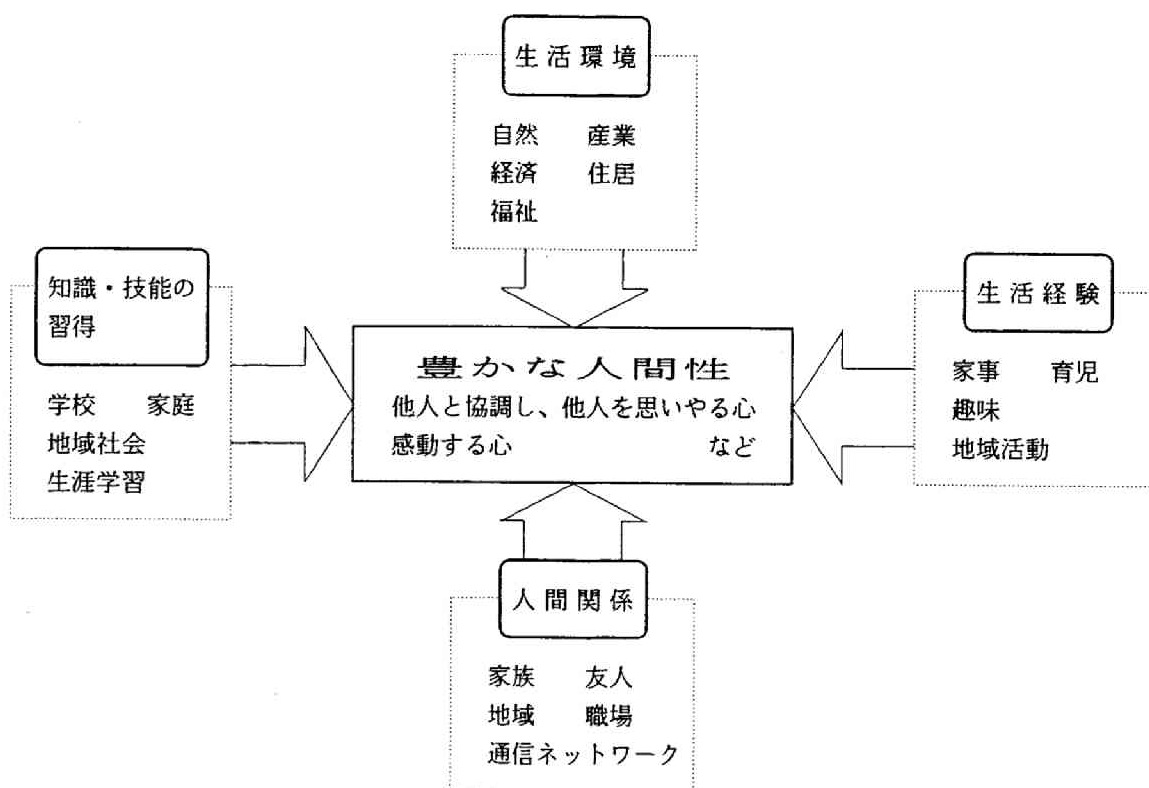


図2 豊かな人間性をはぐくむ要因

2 研究の進め方

(1) ライフコースにおける自己決定場面

人間の一生は船の航路にたとえることができ、こうした人生航路をライフコースという。ライフコースの中には自己決定をしなければならない場面が多数ある。高校卒業後の進路の決定、親からの独立、結婚等、人生の重大なできごとから、社会参加、日常の消費生活にかかわることまで、自分で考え、選択し、決定していかなければならない事項を図3にまとめてみた。これらの選択・決定には、各自のもつ職業観、結婚観、家族・家庭観、生活価値観などが重要な役割を果たす。変動の激しい時代の中で、流れに押し流されることなく人生を送るためには、生徒に自分自身の価値観を確立させ、自分で決定できる能力を高めていくことが重要である。

(2) 指導計画作成上の工夫点

ライフコースの様々な場面における自己決定能力を高めるには、生活の中から課題を発見し、知識や情報を収集・選択し、考え、判断するという過程を学習の中に取り入れ、それを繰り返し行っていくことが必要である。そこで、指導計画を立てるに当たっては、生徒が自分で意思決定し、それを表現することができる場面を設定するよう工夫した。

また、豊かな人間性をはぐくむには、家庭や地域社会の人々、生活環境とのかかわりに気付かせることが大切であり、地域における調査やロールプレイング等の体験活動を通して学習することが有効であると考えた。

以上を基本に、生徒の現在の日常生活の中での意思決定を取り扱う事例（事例1、2、4）、ライフコースにおける意思決定を取り扱う事例（事例3、5、6）を考案し、授業実践した。

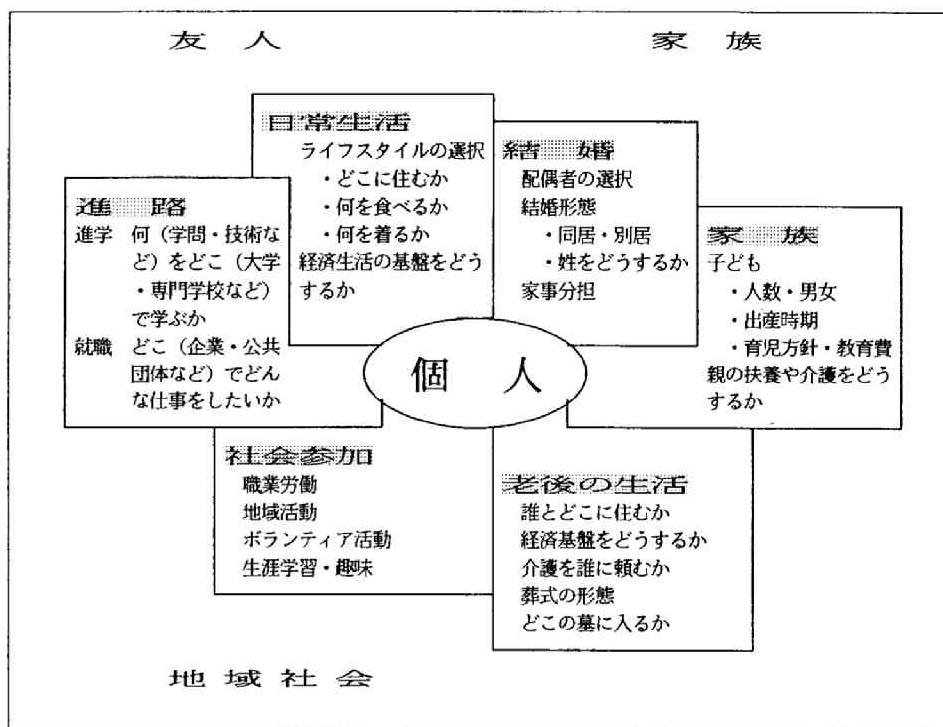


図3 ライフコースにおける自己決定の例と個人を取り巻くもの

IV 指導事例

1 指導事例1 衣服と自己表現

(1) 題材設定の理由

デザイン・価格・品質などにおいて多様な衣料品が豊富に出回り、自分なりの選択基準をもつことが難しくなっている。生徒は、女子高生のルーズソックスに同じブランドのセーター、そしてミニのプリーツスカートの姿に見られるように、ファッション雑誌やテレビの影響を強く受け、本人は主体的に衣服を購入し着用しているつもりであるが、実際には流行に追いかけて衣服を選択している。

そこで、街頭を行き交う人々の服装の観察を通して、服を着るということの意味や自己表現の手段としての衣服について考えさせ、主体的に衣生活を営むことのできる力を育成するために、この題材を設定した。

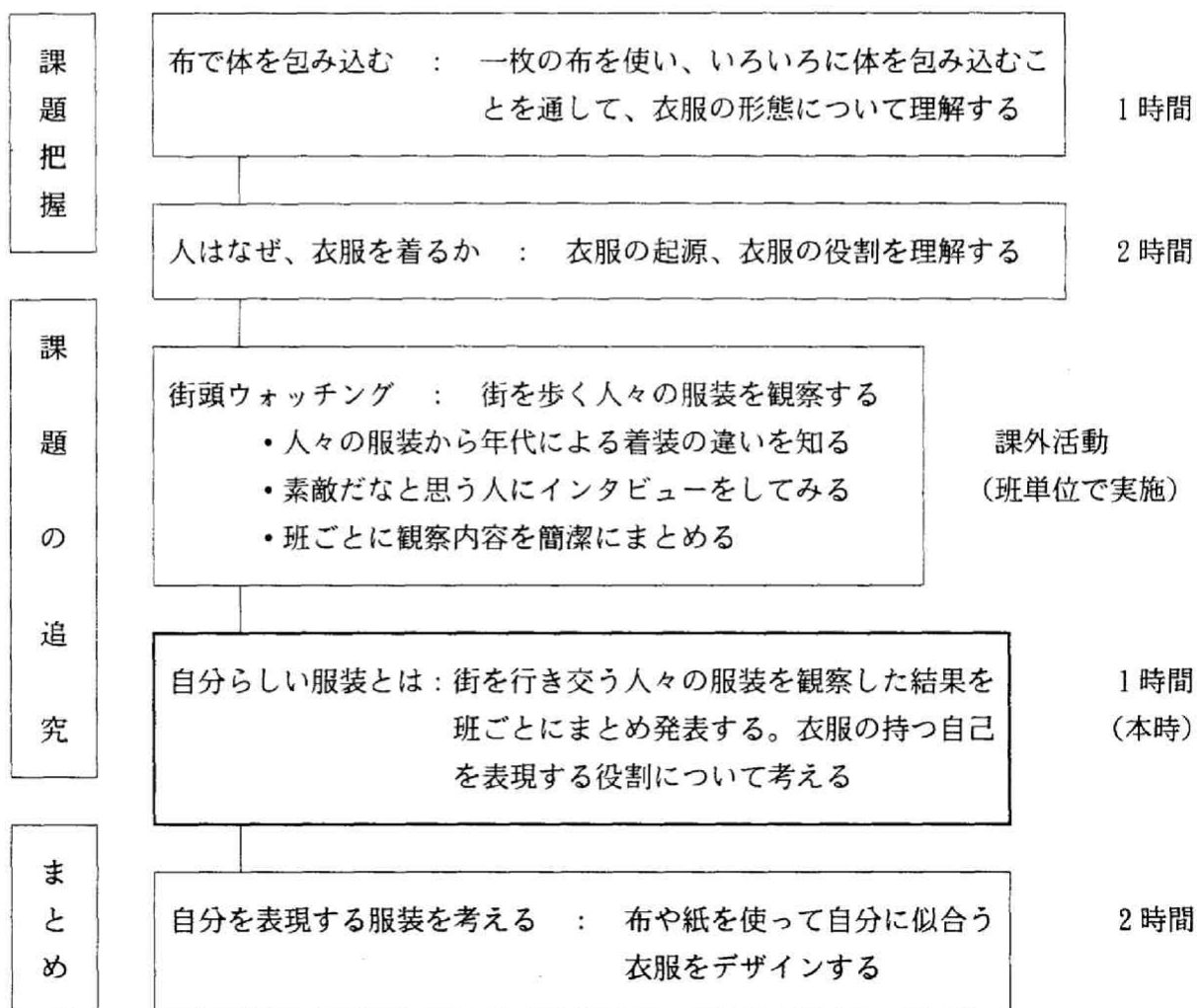
(2) 学習目標

ア 人と衣服とのかかわりを理解する。

イ 衣服のもつ社会的機能について理解する。

ウ 流行の現象に目を向け、自己表現としての衣服の在り方について考える。

(3) 全体計画 6時間



(4) 対象 1年4組 40名(男子20名 女子20名)

(5) 授業の展開 (本時1時間)

区分	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5	○本時の学習内容を確認する。	・本時の学習内容と発表順、時間を説明する。	ワークシート配布
展開	○街頭ウォッチングの結果を発表する。 ・各班ごとに観察を通じて感じたことを発表する。 ・発表を聞いて、ワークシートにまとめる。	・各班のポイントをまとめた画用紙を前に貼り、発表させる。 ・街頭ウォッチング時の写真を回覧する。 ・人それぞれに自分なりの選択基準をもつことの大切さに気付かせる。	マグネット画用紙
開 40	○光野桃さんのファッションについてのエッセイの抜粋を読み、着装について考える。	・各班の発表とエッセイから自己表現としての衣服の在り方を考えさせる。 ・エッセイを読んだ感想を次回までの課題とする。	プリント配布
まとめ 5	○ワークシートを完成する。 ○次回授業の内容を知る。	・ワークシートを集める。 ・次回授業の連絡をする。	

(6) 評価の観点

ア 発表内容が分かりやすく簡潔にまとめられているか。

イ 街頭ウォッチングの課題に意欲的に取り組めたか。

ウ 衣服のもつ自己表現の役割について理解できたか。

エ 流行に振り回されず、自分らしさを表現する衣服選択の大切さに気付いたか。



(7) 生徒の感想

ア 「好きな服」という理由で選んでいる

と思われる人も多くいたが、大人や仕事中的人は機能性を考えていることが分かった。

イ 観察をして気付いたことは、自分の個性が出ていてなおかつ流行に乗っていれば良いと

いう思いが若い人の中では大きく、服の品質等をあまり気にしないことである。その点、大人の方は、素材を良く見極めて生活していくのにふさわしい服を選んでいる。

ウ 女性はいろいろな種類の服を着ることができるが、男性は着るものが限られてしまっているように感じた。

エ 個性的な服の人もいたが、同じ様な格好をしている人が多かった。ファッションを楽しむなら“キラリ”と個性が光るものが良いと思った。

オ やはり清潔が一番、だらしない格好をせず、見る人も着る人も気持ちの良い服装が一番良いと、今回の観察で実感した。

(8) 考察

ア 本校に近い青山、原宿、渋谷といった若者の集まる場所で観察をした班が多く、異なる年代による着装的の違いを観察できなかった生徒もいた。また、こうしたファッションナブルな場所での観察のため、どうしても目は同年代の人に向けられがちであった。観察場所を限定してもよかったと思う。

イ 個性的な着こなし方の人を観察できた反面、流行の服を着て同じ様な格好の人が多くことが各班の発表から分かった。個性的な着こなしは、流行の服を着ることではないと思いつつ、流行を無視できないでいる自分も含めた若い世代の着装に気付いたようである。

ウ 秋も深まった時期の観察で、着る服の形や色も夏とは異なっており、季節と服とのかかわりや若い年代と大人、女性と男性での服に対する意識の違い、さらに見ただけでない服の選択のし方の大切さに気付き、観察を通じて服についての理解が深まった。

エ 発表方法については、今後、提示装置の使用等の工夫が必要である。

街頭ウォッチング

街を歩く人の服装を観察して、服について考えてみよう。

☆ 街を歩いている人の服装の傾向はどんなだろう。

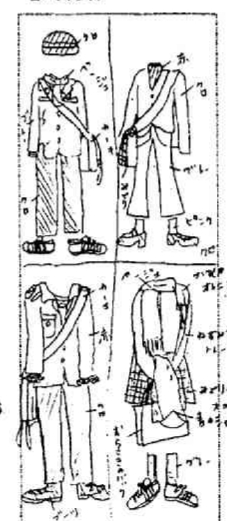
全体的に、暖色系の服装をしていて、赤や茶や黒が
多かった。スリットの入ったスカートが、100%の
ものだった。若い人はおしゃべりな人が多い。
服装に好みや、個性もささげおしゃべりしている

☆ 寒くなった服装の人にインタビューしてみよう。

12/28(火) 表参道にて PM 4:30 ~ 5:00

<p>17才(男性)</p> <p>コート：特になもの着る</p> <p>写真的な：初期のパンク系</p> <p>好きな色：赤、黒、白、茶、青、紫</p> <p>my boom：おしゃべり</p> <p>写真的なについて：よいと思う</p> <p>個性は、自分意識と関係</p> <p>ファッション：おしゃべり</p>	<p>19才(女性(学生))</p> <p>写真的な：赤、黒、白、茶、青、紫</p> <p>20才(学生)</p> <p>写真的な：赤、黒、白、茶、青、紫</p> <p>好きな色：赤、黒、白、茶、青、紫</p> <p>写真的なについて：よいと思う</p> <p>個性は、自分意識と関係</p> <p>ファッション：おしゃべり</p>
---	--

☆ 観察して感じたことを書いてみよう
(衣服の持つ2つの機能を考えながら)



防寒のように、ニットを着たり
帽子をかぶったり、マフラーをまいた
りしてはいたけど、その小物もかま
りつつおしゃべり、身体保護
機能でも装飾機能も
本能的にしていると思う。

今にインテリジェントに
おしゃべりして(おしゃべりな
に、インテリジェントに)おしゃべ
りたかおしゃべりして)

自分のスタイルを身につけてい
ると思う。特に男性もおしゃ
べり、おしゃべりをしている
ようにいいと思う。

おしゃべりも本能的にしてい
たおしゃべりか、お
しゃべりも自分のスタイルで
かまらぬと思う。

2 指導事例2 自立した食生活と消費生活における購入の在り方を考える

(1) 題材設定の理由

「食べる」という行為は、人間にとって最も基本的な行動の一つである。今日、極めて多くの食品が市場に出回り、手軽に購入できる状況にある。また外食産業の発達もめざましく家庭における食生活の在り方に大きな影響を与えている。ともすると、一時の空腹や嗜好を満たすだけの食事になりがちな状況の中で、生徒一人一人が自分の食生活を見つめ、消費者として食品や購入場所に関する知識や情報を活用・判断し、自己の必要とするものを選択することのできる能力を育成することは、食生活の自立を図る上で極めて重要であると考え、この題材を設定した。

(2) 学習目標

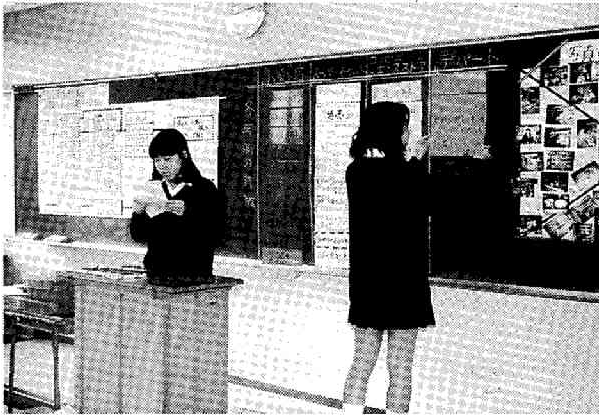
- ア 現在の自分の食生活を見直し、改善しようとする意欲を引き出す。
- イ 消費者として適切に食品や購入場所を選択でき、今後の食生活に生かすことができる。
- ウ 食生活における自立を図る。

(3) 全体計画 8時間

の学 把習 握内 容	各自の食生活を見つめ、自立した食生活とは何か考える。	1時間
把課 握題 の	「お腹がすいた、何を食べようか？」（ワークシート参照） ・「作る」「作らない」「外食」からの選択をスタートに、様々な食生活行動があることを理解する。 「クリームシチュー・ごはん」を作ることを提案する。 ・各班でどのような食品を選択し、どのように作るか検討する。	2時間
課 題 の 追 究	班ごとに選択した店舗で食品を購入し、チェック表に従い、店舗の状況を調査する。（店内の様子を写真撮影する。） ・価格、鮮度、賞味期限、包装状態、品数、店員との会話状況 購入に要した時間 等	（課外活動）
	調理方法・手順の検討 ・各班で実習のポイントについて調べ、まとめる。	1時間
	調理実習（クリームシチュー・ごはん） ・班毎に購入した食材を用いて作る。 ・実習終了後、一人当たりの費用を計算し、感想をまとめる。	2時間
・ま 評と 価め	班ごとに選択した店舗の特徴、実習の結果をまとめ、発表する。 今後、どのような食生活を送っていきたいか、考えをまとめる。	2時間 （本時）

※写真撮影はその店の了承を得て行う。

(4) 授業の展開 (2時間)

区分	学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入 10	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習目標を知る。 ○実習記録用紙を完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の調理実習をもとに、本時の作業及び実習記録用紙の書き方等を説明する。 	実習記録用紙
展開 40	<ul style="list-style-type: none"> ○各班ごとに選んだ食品・店舗の特徴や分かったことをまとめ、マグネットシートに記入する。 ○店内の様子を写真を模造紙に貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マグネットシートは異なる色のものを各班に渡す。 ・発表する際に、撮影した店内の写真が効果的に活用できるように考えさせる。 <p>(休憩)</p>	調査チェック表 色別マグネットシート 写真 模造紙 マジック
展開 35	<ul style="list-style-type: none"> ○各班ごとに調査結果を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・小売店 ・スーパーマーケット ・コンビニエンスストア ・デパート ○他の班の発表を聞きながら、要点をプリントに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マグネットシートにしたがって食品の購入・調理実習の際に気付いたことを発表させる。 ・質疑応答の時間をとる。 	まとめのプリント 
まとめ 15	<ul style="list-style-type: none"> ○各自がよく利用している店舗の特徴を知る。 ○今後の自分の食生活の在り方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の自分の食生活及び食事パターンを理解させる。 ・これまでの授業を振り返らせながら、将来の食生活について考えさせる。 	まとめのプリント

(5) 評価の観点

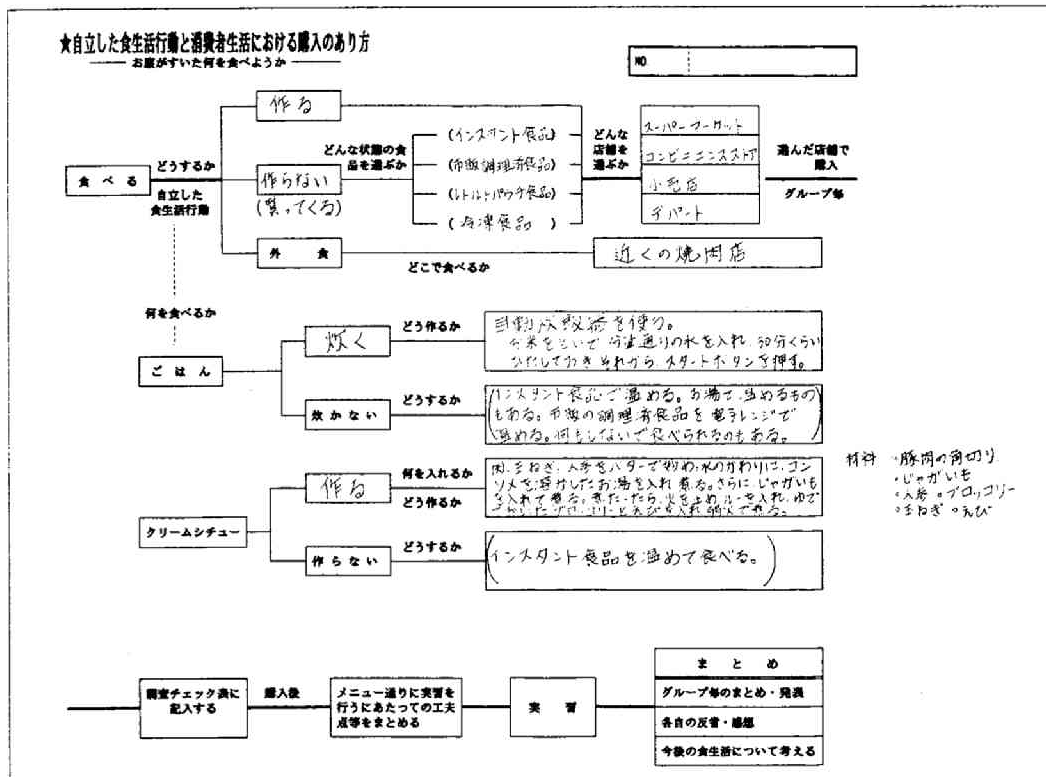
- ア 食材の購入、実習、発表に対し、主体的かつ意欲的に取り組めたか。
- イ 各店舗の特徴を理解できたか。
- ウ 現在の自分の食生活を見直し、学んだことを今後の食生活に生かそうとしているか。

(6) 生徒の感想及び結果

- ア 小売店はその品物の専門店であるため、新鮮なものがあると思って選んだ。全部で4カ所の小売店で購入したので、時間がかかった。食品を選んだりする時にお店の人に相談できる点やバラ売りをしてくれる点などが便利であると思った。
- イ スーパーマーケットは、何でもそろっていると選んだ。品数が豊富で、特売品や店長のお勧め品など目のひく商品があった。冷凍食品や調理済み食品も多かった。
- ウ コンビニエンスストアは24時間営業で便利であり、身近に感じたので選んだ。そのまますぐ食べられる物はたくさんあるけれど、作ろうと思うと材料はあまりないので難しいと感じた。また価格は定価で、安売りはしていなかった。
- エ デパートで、価格の高い輸入缶詰を買ってみた。高い缶詰だからおいしいだろうと思っていたが、手作りが一番おいしいと実感した。今後は値段にかかわらず、自分が良いと思う食品を買いたいと思う。

(7) 考察

- ア 食生活と消費生活の領域を結び、体験的な活動を取り入れることにより、生徒は興味・関心をもって意欲的に取り組むことができた。
- イ 決められた献立を基に、各自（各班）が使用する食品や調理方法、購入場所を順に決定していくことができるワークシートを活用したが、これは生徒一人一人が学習課題を認識するのに効果的であった。
- ウ 研究発表時にマグネットシートや写真を活用してみた。マグネット式カードは各店舗の特徴を理解させるのに役立ったが、写真の活用法については検討の余地が十分あり、今後模索していきたい。



エ 研究発表は、生徒は初めてであったが、各班ごとに工夫して発表していた。このような授業において、教師の意図するところを反映していくためには、授業内における個別指導が重要であり、今後の指導においても生かしていきたいと思った。

3 指導事例3 夫婦別姓 — ロールプレイディベートを通じて現代の家族を考える —

(1) 題材設定の理由

日本の家族はその形態や機能が大きく変化している。生徒は、現行民法の改正議論や性別役割分業について情報として受け止めてはいるが、自らかかわる問題としてとらえているとはいえない。

そこで、「夫婦別姓論」をテーマに、ロールプレイディベートを実施してみることにした。同性支持派と別姓支持派のそれぞれの立場でロールプレイングしながら議論することにより、背後にある「イエ」意識・性別役割分業・男女共同参画型社会等を理解するとともに、多様な家族の在り方を尊重する態度を身に付け、将来、自分自身が直面することとなる家族問題に対して、幅広い観点から考え、判断し、自分で意思決定することができるよう、この題材を設定した。

(2) 学習目標

- ア 家族の変遷・現行民法の改正など現代の家族を取り巻く現状を理解する。
- イ グループ学習を通じて、情報を収集・分析し、客観的に判断する力を育成する。
- ウ ロールプレイディベートを通じ、各々の立場を理解し、自ら価値判断する力を育成する
- エ ディベートを通じて、自己表現力と主体的に学び論理的に考察する力を育成する。

(3) 学習方法

ア ロールプレイディベート

ロールプレイングとディベートを組み合わせ、以下のような学習方法を試みた。

- ① 同姓派と別姓派の文献等から様々な立場の事例や主張を抜粋し、生徒の人数分の役柄を設定する。
- ② 生徒は設定された役柄を演じながら（以下、ロールプレイングと表す）、課題解決のために資料・情報を収集し分析する。
- ③ ロールプレイングしながら、グループの主張とその理由をまとめる。
- ④ ロールプレイングしながら、肯定側と否定側に分かれてディベートを展開する。
- ⑤ 傍聴者である他の生徒達がどちらに説得力があったかを判定する。

イ 役柄の設定例

肯定派

- | | | |
|--------|---|------------------------------------|
| A (女性) | } | 事実婚歴17年のカップル。保育園に通う娘がいる。家庭内の家事はすべて |
| B (男性) | | |
| C (男性) | | …妻の氏で婚姻届を出す。5年間の通称使用により不快な体験数しれず。 |
| D (女性) | | …10年間通称使用後ペーパー離婚し、現在、夫と共同生活中。 |
| E (女性) | | …大学教授。研究論文は旧姓のままだが通称使用が困難な事態になった。 |

否定派

F (女性) …事実婚をした女性の母親。娘に普通の結婚を望んでいる。
 G (男性) …夫婦同姓推進派。アメリカ大統領選挙と家族制度の視点から主張する。
 H (男性) …与党国会議員。夫婦同姓推進派。
 I (女性) …明治生まれ。嫁ぎ先の家馴染み、嫁として生きるのは当然と考える。
 J (女性) …22歳。結婚して「旧姓 ○○」と書くのが夢。

- (4) 全体計画 13ページ参照
 (5) 対象 1年3組 43名(男子23名、女子20名)
 (6) 授業の展開(本時2時間)

区分	学 習 活 動	指導上の留意点	備 考
導 入	○ロールプレイディベート学習の 進め方を確認する。	・研究の成果を、役柄を演じな がら討論することを確認する。	ワークシート
展 開	○ロールプレイディベート1回戦 テーマ 「夫婦別姓も選択できるべし」 ①自己紹介(役柄の紹介・主張) 1人1分 ②肯定派立論(代表者) 3分 否定派立論(代表者) 3分 ③作戦タイム 3分 ④自由討論 12分 ⑤作戦タイム 3分 ⑥肯定派立最終答弁 3分 否定派立最終答弁 3分 ⑦評価 1分 ⑧審判(全員で色用紙挙手) 1分 ○ワークシート記入	・時間を守るように留意する。 ・発表者以外は、ディベートを 傍聴しながら、記録できるよ うに留意する。 ・発表者には、ロールプレイし ながらディベートさせるよう にする。 ・感情的な発言にならないよう に留意する。 ・判定表を記入しながら、客観 的に審判するようにさせる。 ・用紙の色で簡単に判定を下す。	《発表者》 役柄名の名札 ワークシート 発表資料 《司会者》 ストップウォッチ 進行表 《傍聴者》 ワークシート プリント 色別判定用紙
		(休 憩)	
	○ロールプレイディベート2回戦 以下同様のため省略		
ま と め	○ワークシートに記入し提出する。 ○次回の内容を確認する。	・記入漏れの有無を確認する。 ・次回の予告をする。	

ロールプレイディベート

学習内容の把握	<p>家族の在り方の変遷を理解する。 ・明治民法（家制度）～現行民法</p>	1 時間
	<p>「婚姻届」を書く：男女が二人一組になり、婚姻届を話し合いながら記入する。</p> <p>・二人で新本籍を決めることに気付く。 ・夫婦別姓が選択できないことを理解する。</p>	1 時間
課題の把握	<p>ロールプレイディベートの学習方法を理解する。</p> <p>・肯定派と否定派の様々な主張の資料を、一人一件ずつ選び、熟読する。⇒各自の役柄とその立場を理解する。 ・ロールプレイディベートのグループ学習の進め方・基本用語・発表方法を理解する。</p>	1 時間
	<p>ディベートのテーマ「夫婦別姓も選択できるべし」肯定派・否定派のグループ編成で話し合う。</p> <p>・ロールプレイしながら自己紹介し、意見交換する。 ・ディベートに向けての研究計画を立てる。</p>	1 時間
課題の追究	<p>課題について調べ、資料・情報を収集し分析する。</p> <p>・各自の立場を主張するために根拠となる事実を収集する。 ・夫婦別姓議論の背景や問題点を文献や新聞から探る。 ・家族（親・祖父母等）に意見を聞く。</p>	課外活動 ↓ 2 時間 ↓ 課外活動
	<p>グループで話し合う。</p> <p>・立論、想定尋問、最終答弁を検討する。 ⇒作戦ノート、発表資料を作成する。</p>	
発表	<p>ロールプレイディベートに参加する。</p> <p>・発表者＝ロールプレイしながらディベートに参加する。 ・傍聴者＝各立場を理解する。評価する。</p>	4 時間 (本時1/2)
	<p>民法改正案について理解を深め、現代家族の多様な在り方と問題点を理解する。</p> <p>・ビデオを視聴し、多様な価値観や諸外国の事例を理解する。 ・晩婚化、少子化、ジェンダーフリー等を理解する。</p>	1 時間
評価・発展	<p>ディベートを振り返りながら、評価し、肯定・否定派両者の立場から一人でディベートする。〔自己決定〕</p> <p>・自己評価する。 ・各自が、自分の主張を決定しまとめる。</p>	1 時間
	<p>生徒達の自己決定の要旨抜粋のプリントを読み、「家族とは何か」自分の考えをまとめる。</p> <p>・クラスメートの意見を理解し、自己の決定を再検討する。 ・自分自身の将来を考えながら、「結婚」「家族」等のテーマで小論文を書く。</p>	1 時間

(7) 評価の観点

- ア 役割を演じながら、その立場で、ディベートに積極的に参加できたか。
- イ 資料を分析した上で、意見をまとめ、論理的に発表することができたか。
- ウ 他者の立場を理解することができたか。
- エ 課題を通して、現在の家族の在り方について多角的に考えることができたか。
- オ 他者の考え方、価値観の相違を認め合った上で、意思決定することができたか。



(8) 生徒の感想

- ア 自分の意見と違う派の役を演じてみて、良かったと思う。その役柄になって話し合うのは難しかったが、気持ちを込め役になりきってしまうと、おもしろく分かりやすかった。他の役柄でもう一度やってみたい。
- イ 簡単そうに思えたテーマも実は奥が深くて難しいテーマだった。“家族”“夫婦”の本質に迫る問題になった。将来のことを真剣に考える機会になった。
- ウ いろいろな考え方があるのを知っておもしろかった。「わたしの考えはこっち」と決めつけずに、相手の意見に耳を傾けることが必要だと思った。話し合うことは大切だと思った。これを機会に、このテーマに関心がもてたのでこれからも考えていきたい。同時に、もっともっと自分自身で考えていかなければならないことが分かった。

(9) 考察

- ア 中学までにロールプレイングやディベートを経験した生徒は数名であり、学習方法を理解させるために、ワークシートや資料を工夫した。段階を踏んで、繰り返し指導することが必要であることが分かった。
- イ 課題について生徒が自ら調べ、考え、話し合う時間を重視し、個人学習とグループ活動に十分に時間を配当したつもりだが、予想以上に時間を要した。状況の把握、情報の収集、分析、課題解決の検討、自己決定に到るまでの過程は、十二分に時間配当する必要があることが分かった。
- ウ 生徒の自己評価から、教師の予想以上に楽しみながら意欲的に学んだことが分かった。自分の意見を前面に主張するのではなく、あくまで役柄の立場で議論するので、生徒間に感情的なしこりを残すこともなく、自由に意見交換ができたようである。
- エ 個人学習、グループ学習、ディベートを通じて、課題に対して正しい答えが一つあるものとの思い込みを取り除き、考え方や価値観に多様性があることを理解させることができた。
- オ 傍聴者がディベートに意欲的に取り組めるかどうか心配したが、ワークシートには他の人の意見をメモするだけでなく、自分自身の意見の記入が随所に見られ、教師の杞憂に終わった。ディベートを聞くことにより、共感するということが学習できた。

4 指導事例4 地球温暖化について理解し、ライフスタイルを見直す

(1) 題材設定の理由

現在、地球温暖化問題が21世紀に向けての大きな課題となっている。人間の活発な活動により温暖化現象が急激に進み、海水が膨張したり、氷が溶けて起こる海面の上昇や多くの陸地の水没が予測される。

また、オゾン層の破壊をはじめ、異常気象による洪水や干ばつの増加、農作物の不作からの食糧危機など日常生活に大きな影響を与えると予想されている。

これを防ぐためには、私たち一人一人が日常生活の無駄をなくし、二酸化炭素の排出を少なくしていく必要がある。一人の行動はささやかでも、皆が気持ちを合わせて実践していけば、環境を保持する世の中をつくりだす大きな力になる。環境に対して責任ある消費行動をとり、真に豊かなライフスタイルを確立することができるよう、この題材を設定した。

(2) 学習目標

ア 環境問題に対する理解を深め、環境に負荷を与えている要素について理解する。

イ 地球環境保全を視野に入れて消費行動における意思決定ができ、実践していく態度を身に付ける。

ウ 環境問題を自分自身の問題としてとらえ、判断し、行動することの大切さを理解する。

エ 環境家計簿の記帳を通して、日常生活の点検・見直しを行い、今後の生活で実践できる態度を養う。

(3) 全体計画 6時間

把課 握題	「環境にやさしい暮らし」とはどのようなものか考える	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の電気・水道・ガスの使用状況を調査する 日常生活でのリサイクル状況を調査する（ビン、カン、トレイ、牛乳パック等） 	（課外活動）
課 題 の 追 究	衣生活領域における環境に配慮した事例をあげる	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 環境にやさしい洗濯 不要になった衣服のゆくえ 	
	地球温暖化について理解し、ライフスタイルを見直す	2時間 （本時）
	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化の原因をビデオ視聴により理解する。 環境家計簿をつける。 	（課外活動）
評 価	環境家計簿を記入した結果をもとに、日常生活の中で実践できることを探す	2時間
	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー（ビデオ視聴） ドイツ流生活スタイルの紹介 環境問題に関する川柳づくり エコたわしの製作 	

(4) 対象 2年3組(女子26名)

(5) 授業の展開(本時2時間)

区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	教材・教具
導 入 15	○本時の学習目標を確認 ○「環境にやさしい暮らし」について	1学期の意識調査をふりかえる ・6ヶ月後の変化の状況を確認する。	1学期に確認したワークシート
展 開 35	○地球温暖化のビデオの視聴 ○電気検針票の読み方を理解する。 ○世代による電気使用量の比較をする。 ○電気メーターの調査により、使用状況を把握する。	・地球温暖化の原因・現在の状況について理解させる。 ・検針票に記入されている事項の読み方について説明する ・20代、30代、高校生のいる家庭のデータを用意し、比較する。 ・読み取れる内容を確認する。 ・待機電力について知らせる。 (休 憩)	ビデオ 電気の検針票 各データ
展 開 40	○環境家計簿のつけ方を理解する。 ア 1週間の目標を考える。 イ 1日の使用量を確認する。 ウ 二酸化炭素の排出量の求め方について理解する。 エ 1週間分の使用量をもとに二酸化炭素排出量を計算する。	・記入方法について理解させる ・他の人との比較をし個人の目標を決める。 ・3～4人で1グループとし、各自が調べてきたデータをもとに環境家計簿をつけさせる。 ・机間巡視を行い、グループごとに指導する。	環境家計簿
ま と め 10	○これからの学習内容を知り、継続して実践することの必要性を理解する。	・1週間環境家計簿をつけることを課題とする ・記入に慣れたら1ヶ月ごとに検針票でチェックすること、今週の目標を考えること等、日常の行動の中に取り入れていくことが大切なことを理解させる。	

◎環境家計簿 電気やガスなどのエネルギーや水について、限られた資源を大切に使うために、目標を立てて実践し、評価し、改善していくための点検表のこと。

(6) 評価の観点

- ア 環境に負荷を与えている原因が理解できたか。
- イ 日常生活における二酸化炭素排出量を確認できたか。
- ウ 環境家計簿の記入の仕方が理解できたか。
- エ 環境問題は、消費行動と関連していることを理解し、エコライフを実践できる態度が身に付いたか。

(7) 生徒の感想

- ア 普段、平気で環境を汚しているけれど、これ以上環境を汚さないためには、私はもちろん、みんなで協力して環境問題について、取り組んでいかなければいけないと思う。
- イ 生活の中で「これぐらいいいや」と思う気持ちでいたけれどそれではいけないと思った
- エ 本当にこのままの生活では地球が汚染されてしまう。生活をほんの少し変えることで地球はよりきれいになると思うし、自分もこれから環境を考えた生活に変えたいと思う。
- オ 一人一人が環境問題にかかわっている。小さなことでもみんな協力すれば何年か後には減ると思った。今は便利な時代だけれど、そのつけは将来必ずやってくる。

(8) 考察

- ア 使用したビデオは、市民生活と地球温暖化というテーマで、温暖化による影響や二酸化炭素排出量の原因を理解させ、それを防ぐための行動を呼びかける内容のものである。生徒の環境問題に対する興味・関心を引き出すのに効果があった。
- イ 生徒は問題意識はもっているが、自分を含めて全体として意識が低い現状を知り、反省したようである。エコライフについて関心を高める指導が必要であるということあらためて認識した。
- ウ ペットボトルのように生徒にとって身近な品目については、リサイクルを実行しやすいことが分かった。
- エ 環境家計簿に関しては、目標を1週間ごとに設定して記入していく方法を選んだ。記帳することが習慣となれば、記入方法や問題への取り組み方等を改善していくことも可能となる。環境家計簿の記帳を通じて、生徒は、便利さのみを追求するのではなく、次の世代を考えた生き方をする必要性を理解したと思う。
- オ 事前調査のメーターチェックは、各家庭での設置場所が把握できなかったり、見にくい位置にあたりして、毎日確認するためには問題のあることが分かった。

環 境 家 計 簿						
						<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 月
1 電気と水とガスの使用量を調べてみましょう。						
	今 週 気 を つ け る こ と	達 成 度	使 用 量	CO2 排 出 係 数	CO2 排 出 量	
月 日 曜日	①使っていない部屋の照明をこまめに消す。	A B C	電気 kwh	×0.12	kg	
	②歯みがきや入浴の時、水道を流しっぱなしにしていない。	A B C	水道 m ³	×0.16	kg	
	③	A B C	ガス m ³	×0.64	kg	
③は各自で目標をつくる 達成度は該当するものを○で囲む A=よくできた B=半分できた C=努力不足						

5 指導事例5 人間の暮らしと住環境について考える

(1) 題材設定の理由

地域社会における人間関係の希薄さが指摘されている中で、豊かな人間関係を築いていくには、自分だけよければよいという生き方ではなく、他者への思いやりや、地域社会へのかかわりを中心に住環境についても考えていく必要がある。暮らしやすい環境イコール物質的な便利さと考えがちな生徒に、真に豊かな暮らしをすることができる住環境を選択できる目や、住環境を評価できる力を養い、自分を含めてその地域に住んでいる人間が環境をつくるということが認識できるようにするため、この題材を設定した。

(2) 学習目標

ア 住環境を左右する条件を知る。

イ 住んでいる人間がその地域の住環境をつくりあげて理解し、自分もその一員であることの自覚をもつ。

ウ 住環境を決定づける要因の中で、重視していくものは何か考え、自分の価値観に従って選択できる力を養う。

(3) 全体計画 7時間

課学 題習 の内 把握	<p>自分の住まいを見つめることより、豊かな住環境を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理想的な住まいの条件（住建築と周辺環境）を考えていくことにより、住環境を決定づける一般的な要因を理解する。 学校周辺の住環境調査（フィールドワーク）の目的、方法を理解する。 	2時間
課題 の 追 究	<p>住環境調査（フィールドワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校周辺を8ブロックに分け、グループごとに写真撮影をしながらフィールドワークを行い、住環境調査をする。 写真を発表用として模造紙に貼る。 	課外 活動
	<p>住環境調査に基づき、グループ発表をする。 周辺住環境図を完成し、自分の住んでみたいところはどこか考えてみる。</p>	2時間 本時
ま と め 発 展	<p>住んでみたい場所の集計、提示</p> <p>調査地域の住環境評価を行い、人間が暮らすために必要な環境について考え、真に豊かな住環境とは何か考える。</p>	2時間
	<p>住環境とかわる法的制限を理解する（建築基準法など）。</p>	1時間

(4) 対 象 2年5組40名(男子19名、女子21名)

(5) 授業の展開(2時間)

区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	教材・教具
導 入 10	<p>○本時の学習目標を知る。</p> <p>○各班により作成された地図(8種)を見て、本時の学習及び学校周辺の環境に興味をもつ。</p> <p>○黒板に各班で準備した写真を貼った模造紙を掲示する。</p>	<p>・本時の流れを説明する。</p> <p>・あらかじめ各班で住環境調査により作成した地図を提出させ、印刷しておく。 →配布して確認させる</p> <p>・発表の仕方の要点、メモの取り方を確認する。</p>	<p>8班分の住環境調査地図のプリント</p> <p>写真を貼った模造紙</p> <p>マグネット</p>
展 開 40	<p>○各班の発表(1班5分×8)</p> <p>○発表者は写真を用いながら発表する。</p> <p>○発表を聞きながら、ワークシートの表の項目に従い、地図記号からは読み取れない点のメモを取っていく。</p> <p>○地図上の評価ポイントとなる点を聞くことにより、住環境の意味を理解する。</p>	<p>・地図記号からは読みとれない点(ワークシートの表の項目内容)</p> <p>・人間の交流の場は?</p> <p>・誰にでも優しい街か (バリアフリー)</p> <p>・きれいな街並みか?</p> <p>・採光、騒音</p> <p>などについてをきちんと聞けるように、注意を促す。</p> <p>(休 憩)</p>	<p>ワークシート (発表内容記入用一覧表)</p>
展 開 35	<p>○8ブロックの地図を1枚の地図にまとめて記入し、周辺住環境図を完成させる。 (発表内容も含めて書く)</p> <p>○ワークシートの指示に従い、地図を色分けしていく。</p> <p>○地図からは読み取れない周辺住環境の全体像を理解する。</p>	<p>・次の作業を指示する。 8ブロックの地図・発表の内容を1枚のワークシートにまとめさせる。</p> <p>・色分けの仕方を説明する。</p> <p>・色分けをするときに、決められた項目以外に、各自で項目と色を新しく作ってもよいことを指示する。</p>	<p>ワークシート (発表内容記入用一覧表)</p> <p>ワークシート (記入用地図)</p> <p>色鉛筆、 カラーペン 等</p>
ま と め	<p>○完成した住環境図を見て、各自が評価をする。 (調査した地域の中でどこに住んでみたいか、また、それは</p>	<p>・全体を見て、自分が住まいを構えたい場所、住むために困ると思われる場所を理由も併せて考えさせる。</p>	<p>ワークシート (全部)</p>

	なぜか考える。)	
15	○次回の内容（詳細な評価の実施）を理解し、興味をもつ。	・次回の学習の予告をする。

(6) 評価の観点

- ア 住環境調査のフィールドワークをグループで協力して行えたか。
- イ 分かりやすい発表の準備をしていたか。
- ウ 調査した資料を使い、住環境図が見やすく分かりやすく書けたか。
- エ 住環境を人とのかかわりの中で評価することができたか。

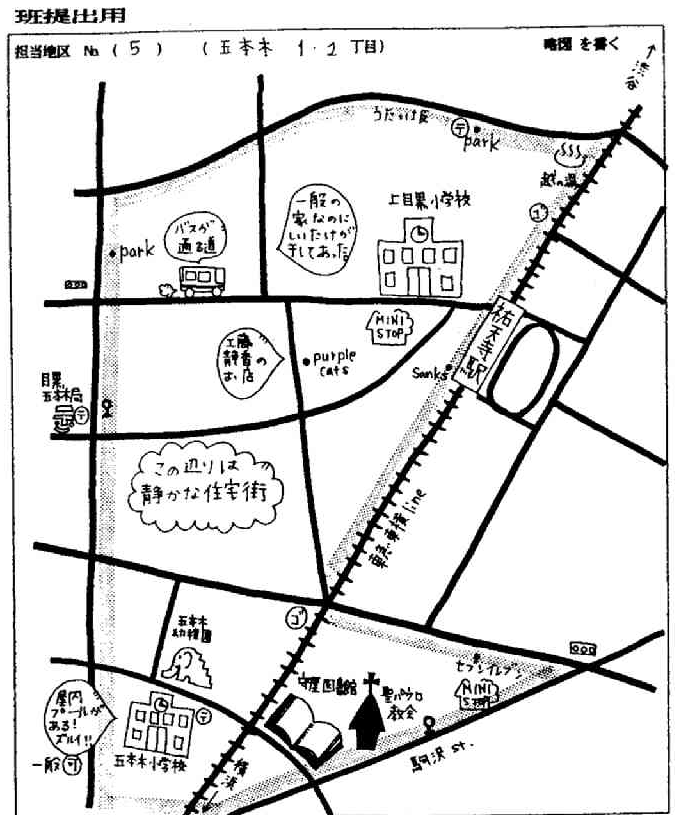
(7) 生徒の感想

- ア 2年近くも通っている場所なのに、改めて調べてみると思いがけないものやおもしろいものが見つかってとても楽しかった。自分の家の近くの環境はどうなのかということも気になった。
- イ 皆んなよく調べていた。急な坂道に手すりがついているところがあるなど、自分達が調査した以外の地域の様子もよく分かった。

ウ 自分はこの近くに住んでおり、今まで不便なところだと思っていたが、今日の発表を聞いて、結構、住みやすい場所なんだと思った。

(8) 考察

- ア 生徒は、グループによる学校周辺のフィールドワークに意欲的に取り組んでいた。課外ということで負担もあったようだが、近隣の人々との触れ合いや、日頃気にも掛けない事柄にも目を向けさせることができ、良い経験となったようである。
- イ 写真を発表に活用したが、小さいため見えにくく、写真活用の仕方が今後の課題である。
- ウ 各班ごとに発表内容についてよく準備していたので、聞いている生徒も街の様子がよく分かった。
- エ 住環境地図作成作業は個人作業としたが、グループごとに周囲と確認させながら作業させても良かったと思う。
- オ 住環境地図を作成させることにより、住宅の密集、道路の状況や放置自転車などがバリアフリーの妨げとなることに気付いた生徒もいた。住環境の評価は自分自身の便利さのみで行うのではなく、あらゆる人の立場を配慮して評価することが必要であることを理解したようだ。



5 期組 5 班 班員名

11月1日 1時50分～3時30分 天気 ☁️

6 指導事例6 住まいと家庭生活 — ライフスタイルの実現を目指して —

(1) 題材設定の理由

家庭生活の場である住居は、これまでに長い歴史と時代の様相を反映させつつ、家族の生活を支えてきた。そしてそのことは、今後も変わることはないと考えられる。むしろ、ライフスタイルの多様化は進み、住生活に対する人々の関心は一層高まると思われる。

そこで、「どのような住まいに、どのように暮らすのか」ということをテーマに、一人で暮らす住居、家族で暮らすための住居について、様々な条件について考え、必要なものを選択し、表現することを通して、個人の意思決定が住生活・家庭生活の在り方に大きく影響することを理解させるためにこの題材を設定した。また、この過程の中で、個々の価値観が社会に与える影響力の大きさと、行動力の重要性を認識させたいと考えた。

(2) 学習目標

- ア 一人暮らし及び家族で生活するための、住生活における必要条件を理解する。
- イ 住空間を設計するための基本的知識を身に付ける。
- ウ 家族の一人一人の立場を尊重し、高齢者や乳幼児・障害者を思いやる態度を身に付ける。
- エ 生活者として、住生活・住環境をよりよくしようとする意識をもつ。

(3) 全体計画 20時間

把 課 握 題	住宅に関する基本事項を学習する。 ・住宅の構造、平面図に用いられる表記記号 等	2時間
課 題 の 追 究 と ま と め	一人で暮らすための居室について考え、どのような生活条件を整えたいかを選択し、必要条件を決定する。	2時間 (本時)
	家族で生活するための住居の必要条件について学習する。 ・乳幼児・高齢者・障害者に配慮した住居→バリアフリー	4時間
	各自で、二～三世代が同居する家族を設定し、その家族が居住するための一戸建住宅の間取りを考え、平面図の設計をする。	8時間
発 展	快適な住まいと環境の関係について考える。	4時間

(4) 対象

2年F組 40名 (男子21名 女子19名)

(5) 授業の展開（2時間）

区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	教材・教具
導入 15	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容を知る。 ○居室構成の表記方法を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を説明する。 	
展 開 35	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が一人暮らしをするために必要な居室構成を決める。 ○居室タイプの中から希望する間取図を選択する。 ○自室のデザインをする。 ○間取図のワークシートに家具や電気製品を記入し、収納スペースとフロアの利用の仕方を具体的に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①ワンルーム・1K、②1DK・2K、③2DK・2LDKの中から1つを選ばせる。 ・間取図数例を用いて、表記記号を説明する。 ・家具の大きさは、間取図ごとに適宜対応する。 ・机間巡視を行い、個別に指導する。 	<p>プリント</p> <p>教材提示装置</p> <p>ワークシート</p>
展 開 35	<ul style="list-style-type: none"> ○完成した自室のデザインを発表する。 ○間取り以外に考慮しなければならない住居選びの条件について考える。 ○住宅情報誌に掲載されている内容を理解し、内容が十分かどうかを検討する。 ○実際に現地へ出かけ、物件を調査しなければ把握できないことを挙げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3～4人に発表させる。 ・住宅構造や設備、築年数、交通の便、周辺環境等を気付かせる。 ・生徒の発言を促す。 ・具体例の紹介をする。 ア ロフトがあり、天井が高い。 イ 1階で、庭付きである。 ウ 外観がモダンな形状である。等 	<p>教材提示装置</p> <p>ワークシート</p> <p>教材提示装置</p>
ま と め 15	<ul style="list-style-type: none"> ○各自が自分の住まいにとって欠かすことができないと考える条件を決め、ワークシートにまとめる。 ○授業の感想をまとめ、次時の学習内容を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとに条件を選択させる。 ・理由を明確にさせる。 ・作業の進捗状況を確認する。 ・生徒の発表を促す ・間取図に関する実際の付帯条件を示す。 ・次時の学習内容を確認する。 	<p>ワークシート</p>

(6) 評価の観点

- ア 記号や用語を理解して、作業をすることができたか。
- イ 一人暮らしの住生活について、具体的かつ主体的に考えることができたか。
- ウ 住みたいと思う住居の条件を、様々な視点から判断し、精選することができたか。

(7) 生徒の感想

- ア 自分が住みやすい部屋を探しだすのは難しいと思った。部屋の広さや配置の他に、条件がいっぱいあり、それがすべて自分に合うものはなかなかないものだと思った。それでももし自分がここに住んだら、と考えるのはとても楽しかった。
- イ 間取りを見た時、広さと、南向きという事だけを考えて選択したが、実際の物件はアパートで、追い焚き機能はついておらず、自分の条件と合わなくてがっかりした。そのうえ家賃も高くて驚いた。もし、本当に家を探すときは、間取りだけで決めず、自分で家を見に行き、中に入れてみてから決めることが大切だと思う。

(8) 考察

- ア 間取図を選ばせるにあたり、賃料は知らせず、居室構成、広さ、採光面の方向を選択の基準としたが、広い間取りを選択した生徒は少なく、一人暮らしに必要なスペースについて、機能性及び家具の配置を考慮したうえで、想定ができていたようであった。
- イ 生活条件の選択については、これまでの生活体験や住環境について日常もっている意識が反映されていた。そのため、各自の意見に対して同調する意見がある一方で、反対意見も多く、多面的な見方による意見を聞くことによって、各自の視野が広がったようだ。
- ウ 選択する→意見を聞き、再考する→意思決定する、という一連の学習過程は予想以上に時間を要したが、それだけに迷いがあったと考えられる。その過程を重視するという観点からも、時間に余裕が必要であることが分かった。
- エ 賃貸住宅情報誌から、生徒の通学区域にある物件を選び、間取図のみを抽出して作成したワークシートを基に、一人暮らしの住空間をデザインさせた。最後に、実際はどのような条件で貸し出されているのかという情報を知らせたところ、建築物の構造や工法に注目した生徒も多く、前時の学習の成果を確認することができた。
- オ 今後、家族生活を主体にした住生活についての学習になるが、個人のライフスタイルや生活上の必要条件を踏まえたうえで間取りを作成するためには、精選した資料を効果的に提供していくことが、重要なポイントであることが分かった。

(9) ワークシートの一部

1 間取り以外の条件を選択する

①場所・・・・・・(4)

条 件	必要	不要	必要・不要の理由
1 都心に近い			
2 繁華街に近い			
3 主要幹線道路に近い			
4 大型スーパーマーケットに近い			
6 コンビニエンスストアに近い			
6 小売店が立ち並ぶ充実した商店街に近い			
7 銀行・郵便局に近い			
8 最寄駅まで徒歩で10分以内である			
9 駅周辺に駐輪場がある			
10 公衆電話や自動販売機がある			
11 公園があり、緑が多い			
12 大きな川があり土手が広い			
13			

V 研究のまとめと今後の課題

本年度の教育研究員は、「自己決定能力を高め、豊かな人間性をはぐくむ家庭科の指導の工夫」という研究主題に基づき、生徒が現在及びこれからの人生で遭遇するであろう様々な課題に対して、自分で考え、判断し、決定することができる資質や能力を養うとともに、人とのかかわりの中で他者の立場を理解し、他人を思いやる豊かな心をはぐくむ指導内容・方法について研究した。

ライフコースにおける様々な場面での自己決定能力を高めるには、生活の中から課題を発見し、その問題に主体的に取り組み、考え、判断し、意思決定する過程を繰り返し学習することが重要である。そのためには、教師は必要な情報提供と助言を行い、自主的な学習活動を確保することにあると考えた。また、豊かな人間性をはぐくむためには、家庭や地域社会など自分を取り巻く人々や生活環境とのかかわりに気付かせることが必要である。そこで地域における調査や体験活動、発表など生徒が主体となる活動を中心に授業実践した。

指導事例1では、街頭ウォッチングを通して、服を着ることの意味や衣服のもつ自己表現の役割を気付かせ、流行に振り回されず、自分らしさを表現する衣服を選択できる力の育成を図った。

指導事例2では、食生活と消費生活の領域を結びつけ、消費者として主体的に食生活を営むことのできる力の育成をねらいとした。指定された献立を基に、班ごとに食品・調理法・購入店舗等を決定し、自分たちで材料を購入し、調理実習、発表を行う学習に生徒は興味をもって、意欲的に取り組んだ。

指導事例3では、夫婦別姓をテーマとしたロールプレイディベートを通じて、その背景にある家族問題について考えさせた。他者の立場を理解したうえで、自己決定していくプロセスを体験することによって、多様な価値観を尊重する態度の育成につながった。

指導事例4では、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を削減するための生活について、環境家計簿の記入を通して考えさせ、個々のライフスタイルの見直しを図った。このことから、問題意識をもって生活する必要性を認識させることができた。

指導事例5では、学校周辺の住環境についてグループで調査し、住環境地図を作成していく中で、豊かな住環境について考えさせた。住環境は人間が造るものであり、自分自身も地域の構成員であるという自覚をもたせることができた。

指導事例6では、一人暮らしの生活空間や生活条件を、各自のライフスタイルに合わせて設定させた。選択できる条件の数を制限することで、自分で決定することの必要性を認識したと思われる。

以上の事例により、生徒一人一人が学習課題を自分のものとして理解し、主体的な活動ができるよう工夫することにより、課題に対する意識を高め、思考し、自分で判断し、決定することができる資質や能力を高めることができたと思われる。また、地域研究やロールプレイング等により、人や地域とのかかわりや他者の立場を尊重することの大切さを理解させることができたと思う。研究主題が大きく、十分に迫ることができなかったが、今後は生徒の卒業後の進路決定や、性的自己決定等についても取り上げ、研究していくことが必要である。